



笹林公園で統一メーデー祭典

# 結集した力を春闘へ

## 政治反動に対決して闘う

### 大牟田地区統一メーデーで決意

第五十回大牟田地区統一メーデー祭典は五月一日のその日、雨のなか約四千人の働く者を結集し、笹林公園で開かれ、独占資本と反動大平内閣、保守・市政と対決、暮らしと権利、平和・民主主義を守るために闘い続けることを誓った。ことしメーデーに参加したのは、全国千二百三十三カ所で約五百五十万人と伝えられ、なお続く春闘への決意を固めた。(同じ大牟田地区の有明地区労働組合三池新労組が中心勢力)は、雨を理由にメーデー祭典を中止した。なお、大牟田メーデー大会は次の大会宣言を発表、全市民にともに闘おうと訴えた。

第五十回メーデーは、不況から抑制「雇用不安」「福祉切り捨て」の立ち直りといわれながらも依然として、国民生活条件の低下として続く「物価値上げ」「賃金」という情勢のなかで開かれた。

完全失業率は史上三番目を記録、金通大量処分、今年度予算を、大平内閣はこれにテをうって強行するなど、国民生活無視の態、このか、一般消費税率導入、元号法度をとり続けている。

われわれはこのような政策を転換させ、国民生活の改善を迫る統一地方選挙・春闘を闘ってきた。統一地方選挙の結果は、とくに大牟田では勝利とはいえないが、闘いに結集したエネルギーはかつてないものがあった。このエネルギーを春闘をはじめとする諸闘争に継続するならば、必ず勝利は切り開くことができ、闘いは今からである。決意あらたに春闘に全力をあげるとともに、民主主義擁護、政治革新のため戦線の再構築をはかり、秋に予想される総選挙、来年の参議院議員選挙に備えなければならぬ。

すべての労働者・市民のみなさん、連帯を強め、独占資本と反動大平内閣、専横専政、黒田市政と対決し、暮らしと権利、平和、民主主義を守るためにがんばろう。

## 忘れられぬくやしき

許せぬ戦前への逆もどり

### 元号問題、重大段階に

#### 佐野洋・談

今の天皇誕生日、当時は天皇節といいましたが、この日は学校で必ず式があり休みでも登校して、小学生の時から校長の教育勅語を下を向かされて聞き、そして読ませられ、今度は天皇をたたえる奉答歌を歌わせられる。学校行事が全てそんなものと結びつけられていました。また「省線(国電)」を待つ小学生が宮城(皇居)の方を向いて深々と頭を下げ、敬礼した」といったことが本にも書かれ、そんな生徒が自然に増えてくる。小学校からそんな教育だったので「日本は神の国で天皇は現人神(あらひとがみ)」と本気で信じていました。戦争に疑問を持っていたとはいえない、上官の命令は天皇の命令で絶対服従、そういう非合理的な世界に十七歳までいたということが、くやしくてたまらない。それが首相の靖国神社参拝など戦前のあのいまわしい時代の状況に大差似てきた。戦前に逆もどりさせるような元号法制定は断固反対する。【連合】

## 苦しい「反合闘争」へ

### 石炭政策が招いた現実

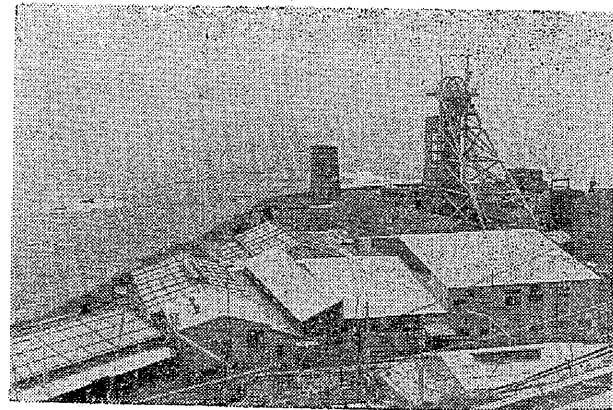
#### 高島労組

三菱高島労組の合理化反対闘争は、すでに臨時大会をもって確認された方針にもとづき、炭労の支援を力に、とりわけ苦しい闘いが続けられている。ここでは春闘とどう向き合っていくかを、三菱高島(豊田定光組合長)がなかで、あらゆる機会、あらゆる行動の展開によって、当組の特殊な事情を十分ふまえた助成効果があることは、本紙前号で伝えた。

もし合理化計画がそのまま押しつけられることになる、同組に働く労働者は、また家族をかかえて暮らすことも、かつてない苦しいことは避けられず、今組合員とその家族は深刻な思いに悩んでいる。

すでに同組はとらえず炭労の支援のもと、五月六日臨時大会を開いて闘いの基本的態度を決めた。今後はもっぱら具体的な戦術をもって闘いはすすむだろうが基本的態度は次の二つ。

(1)炭労を中心とする政策闘争の課題とならざることを、思



高島炭鉱の歴史は古い。明治維新後、一度は三池炭鉱とともに国営炭鉱としてスタートしたが、すぐ三菱の手に占められた。囚人労働にひき続き、長い間納屋制労働がはばをきかし、監獄島と呼ばれてきたが……。 (写真は海浜にそびえ立つ竪坑やぐら)

#### 入賞者出る

##### メーデー行事の囲碁・将棋大会で

メーデーを祝う文化行事として大牟田地評は、今年もまた十三日、囲碁・将棋大会を開催した。「ぼん

とに、碁・将棋の好きな人はかなりの集まりで、勝負はともかく楽しんでいる。これは、同地評の安田和夫次長談である。

例によって三池労組からも、団体・個人が参加し奮闘。その結果次の入賞があった。(敬称省略)

将棋名人戦 準備勝一 古家良一。

今政府・自民党は、国民の間にまだ根強く残る心情や考え方を巧みに利用しながら、あの恐るべき天皇制の復活・軍事国家機構の拡大をめざし、元号法の制定化を實現しようとしている。

反対の声を起せるのは当然だが、そんな文化人の一人・佐野洋さん(小説作家)は「元号法制定は断固反対する。【連合】

#### 手島町議



## 皆さんと共に闘う

### 町議として決意したこと

#### 佐野洋 手島賢二

四月十五日告示、二十二日投票で施行された統一地方選挙に佐野洋(熊本県玉名郡)では初めて社会党公認として闘わせていただきました。

保守性の強い佐野町の中での選挙戦ではありましたが、働く仲間一丸となつての運動で無事の町政が行われています。

心から感謝申し上げます。

佐野洋と佐野賢二は、県議の流した汗が報われる政治を、(保守)を二人だしている関係、また町政の民主化のために精一杯の努力をばらう決意です。

一般消費税率の導入、有事立

手島さんは、三池労組の推せんもあって闘い、当選を果たした人で、全九電労組玉名分会委員長としてもがんばっています。手記を寄せていただき、大変ありがたうございました。がんばってください。

#### じん肺会総会

##### 運動方針など決定

三池じん肺患者の会(同井井雄会長)は、さきに定期総会を開いて新年度の運動方針を決め、同時に新役員を選出した。一部に入れた人、全九電労組玉名分会委員長としてがんばっています。手記を寄せていただき、大変ありがたうございました。がんばってください。